

強撚綿糸で織物の表面凹凸を制御

緯糸の特性を利用して独特の風合いと多彩な意匠を実現

- 縮緬(ちりめん)技法を応用して独特のシボ(表面凹凸)を持った織物
- Z撚とS撚の強撚綿糸の配置パターンでシボの状態を制御
- ジャカード組織と組み合わせることで多彩な意匠が表現可能

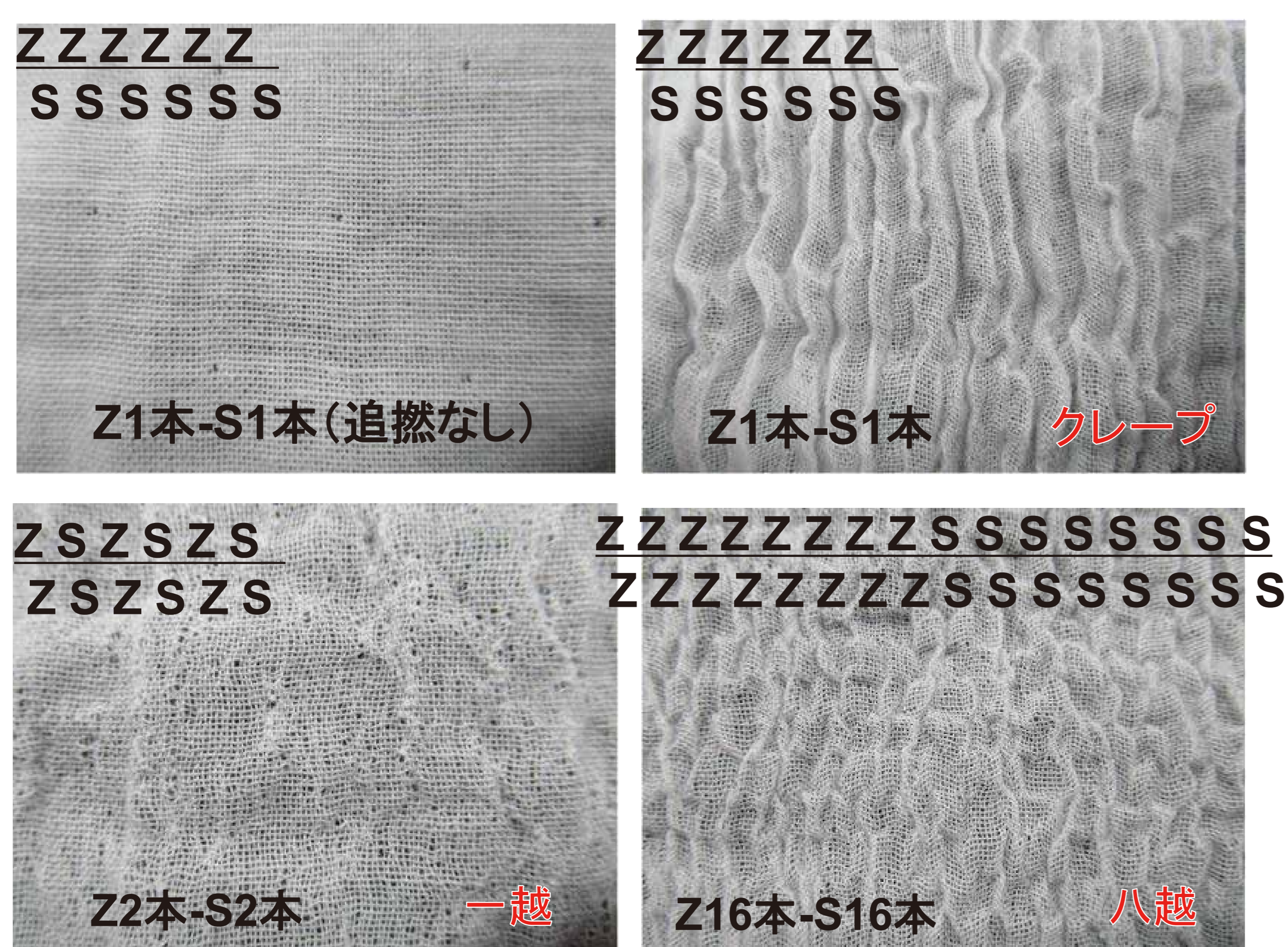
研究目的・内容

アパレルのバイヤーが生地を選定する際のポイントとしては、柄だけではなく手触り(風合い)も重要です。そのため独特の手触りを持つ生地を作れば、付加価値を高めることとなります。そこで本研究では、Z撚(反時計回り)とS撚(時計回り)の強撚綿糸を緯糸に用いる縮緬技法を応用し、独特のシボを持った綿織物の試織を行った結果、緯糸(よこいと)の強撚綿糸の縞割(配置パターン)を変化させることで、シボの状態を制御することが可能になりました。また、従来の縮緬は基本的に平織りですが、ジャカード組織(紋織)と組み合わせることで、多彩な意匠の表現が可能になりました。

将来への技術展開

織物の表面凹凸により皮膚との接触面積が小さいため、涼感素材となることから夏物の衣服などに最適です。もちろん衣服以外にも、カバンや袋などの小物にも使うことができます。さらに撚り数を制御することで、表面凹凸の強弱を制御することも可能です。

連携可能な技術・知財 織物試織、撚糸技術、糸繋ぎ技術(アレンジワインダー)



緯糸の配置パターンでシボが変化(平二重織)



試織した生地

兵庫県立工業技術センター

繊維工業技術支援センター

東山 幸央

連絡先: higashiyama@hyogo-kg.jp / 0795-22-2041

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう

